

会員事業所景況実態調査令和3年4月～令和3年6月分集計結果
調査依頼数:546 回答数 91 回答割合:17%

令和3年度1回目の会員事業所景況実態調査の調査結果について下記のとおりに報告いたします。
 調査結果については、今後の要望・提言活動や経営相談に活用してまいります。
 ご回答いただいた事業所の皆様、お忙しいなか、ご協力ありがとうございました。

★DI値とは

各項目について、増加・好転(仕入単価:下落、従業員:不足)と回答した事業所の割合から
 減少・悪化(仕入単価:上昇、従業員:過剰)と回答した事業所の割合を減じた数値。
 ゼロを基準とし、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で
 景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

【質問 A】 前年同時期と比較した4月～6月の景況

	項目	増加・好転	不変	減少・悪化	合計	DI値	前回DI値	対比増減
全体	売上	22	29	40	91	▲ 19.8	▲ 29.7	9.9
	採算	15	39	37	91	▲ 24.2	▲ 24.3	0.1
	仕入単価	0	50	37	87	▲ 42.5	▲ 23.3	▲19.2
	従業員	12	70	8	90	4.4	5.4	▲1.0
	業況	12	44	34	90	▲ 24.4	▲ 29.7	5.3
	資金繰り	8	65	17	90	▲ 10.0	▲ 17.6	7.6
建設・建築業	売上	2	6	10	18	▲ 44.4	▲ 30.8	▲13.6
	採算	2	8	8	18	▲ 33.3	▲ 46.2	12.9
	仕入単価		11	6	17	▲ 35.3	▲ 46.2	10.9
	従業員	3	15		18	16.7	30.8	▲14.1
	業況	1	8	9	18	▲ 44.4	▲ 38.5	▲5.9
	資金繰り	2	13	3	18	▲ 5.6	▲ 7.7	2.1
製造業	売上	4	6	7	17	▲ 17.6	▲ 29.4	11.8
	採算	2	9	6	17	▲ 23.5	▲ 23.5	0.0
	仕入単価		6	9	15	▲ 60.0	▲ 5.9	▲54.1
	従業員	1	13	3	17	▲ 11.8	0.0	▲11.8
	業況	2	12	3	17	▲ 5.9	▲ 17.6	11.7
	資金繰り		14	3	17	▲ 17.6	▲ 11.8	▲5.8
卸・小売業	売上	5	5	5	15	0.0	▲ 25.0	25.0
	採算	4	5	6	15	▲ 13.3	▲ 25.0	11.7
	仕入単価		10	5	15	▲ 33.3	▲ 16.7	▲16.6
	従業員	2	13		15	13.3	9.1	4.2
	業況	3	7	5	15	▲ 13.3	▲ 33.3	20.0
	資金繰り	2	11	2	15	0.0	▲ 25.0	25.0
飲食・サービス業	売上	6	5	9	20	▲ 15.0	▲ 38.9	23.9
	採算	5	6	9	20	▲ 20.0	▲ 27.8	7.8
	仕入単価		14	6	20	▲ 30.0	▲ 29.4	▲0.6
	従業員	5	11	3	19	10.5	▲ 5.6	16.1
	業況	4	8	8	20	▲ 20.0	▲ 50.0	30.0
	資金繰り	3	11	6	20	▲ 15.0	▲ 33.3	18.3
不動産・その他	売上	5	7	9	21	▲ 19.0	▲ 21.4	2.4
	採算	2	11	8	21	▲ 28.6	0.0	▲28.6
	仕入単価		9	11	20	▲ 55.0	▲ 21.4	▲33.6
	従業員	1	18	2	21	▲ 4.8	0.0	▲4.8
	業況	2	9	9	20	▲ 35.0	▲ 7.1	▲27.9
	資金繰り	1	16	3	20	▲ 10.0	▲ 7.1	▲2.9

(全体)

仕入単価以外はわずかではあるが改善している。仕入単価は20ポイント近くと大幅に悪化しており、DI値も▲40ポイント以上と非常に高くなっている。建設・建築業以外は悪化しており、特に製造業、不動産・その他業種では顕著となっている。

(建設・建築業)

売上、業況以外は改善しており、採算、仕入単価、従業員は10ポイント以上改善している。従業員では、人手不足は続いているが、前回より大幅に改善されている。一方、売上は10ポイント以上悪化している。DI値をみると、売上、業況は▲40ポイント以上、採算・仕入単価は▲30ポイント以上と依然として非常に高くなっている。

(製造業)

採算、仕入単価、資金繰り、従業員以外は改善しており、売上、業況は10ポイント以上改善している。一方、仕入単価では50ポイント以上悪化しており、DI値も▲60ポイント以上と非常に高くなっている。従業員は、マイナスに転じ過剰となっている。

(卸・小売業)

仕入単価、従業員以外は改善しており、売上、業況、資金繰りは20ポイント以上と大きく改善している。DI値も売上、資金繰りはマイナスから脱却している。一方、仕入単価は10ポイント以上悪化しており、DI値も▲30ポイント以上と高くなっている。従業員では若干人手不足が強まっている。

(飲食・サービス業)

仕入単価、従業員以外は改善しており、業況は30ポイント以上、売上は20ポイント以上と大きく回復している。一方、仕入単価はほとんど悪化はしていないが、DI値は▲30ポイント以上と高くなっている。また、従業員はプラスに転じ人手不足となっている。

(不動産・その他)

売上以外は悪化しており、特に仕入単価は30ポイント以上、採算、業況は20ポイント以上と大幅に悪化している。
特に仕入単価はDI値が▲50ポイント以上と非常に高くなっている。また、従業員はマイナスに転じ適正から過剰となっている。

【質問 A】 6月と比較した7月～9月の先行き見通しについて

	項目	増加・好転	不変	減少・悪化	合計	DI値	前回DI値	対比増減
全体	売上	14	35	38	87	▲ 27.6	▲38.4	10.8
	採算	10	40	37	87	▲ 31.0	▲33.3	2.3
	仕入単価	0	47	40	87	▲ 46.0	▲31.9	▲14.1
	従業員	16	66	7	89	10.1	12.2	▲2.1
	業況	11	44	34	89	▲ 25.8	▲40.3	14.5
	資金繰り	7	62	20	89	▲ 14.6	▲27.0	12.4
建設・建築業	売上	2	10	6	18	▲ 22.2	▲38.5	16.3
	採算	2	10	6	18	▲ 22.2	▲38.5	16.3
	仕入単価		9	8	17	▲ 47.1	▲46.2	▲0.9
	従業員	5	11	2	18	16.7	46.2	▲29.5
	業況	3	9	6	18	▲ 16.7	▲38.5	21.8
	資金繰り	1	13	4	18	▲ 16.7	▲23.1	6.4
製造業	売上	4	6	6	16	▲ 12.5	▲25.0	12.5
	採算	3	6	7	16	▲ 25.0	▲25.0	0.0
	仕入単価		4	11	15	▲ 73.3	▲41.2	▲32.1
	従業員	1	14	1	16	0.0	▲5.9	5.9
	業況	4	8	4	16	0.0	▲31.3	31.3
	資金繰り	1	13	2	16	▲ 6.3	▲17.6	11.4
卸・小売業	売上	3	4	7	14	▲ 28.6	▲58.3	29.7
	採算	2	6	7	15	▲ 33.3	▲50.0	16.7
	仕入単価		11	4	15	▲ 26.7	▲16.7	▲10.0
	従業員	3	12		15	20.0	18.2	1.8
	業況	1	9	5	15	▲ 26.7	▲58.3	31.6
	資金繰り	2	10	3	15	▲ 6.7	▲41.7	35.0
飲食・サービス業	売上	2	9	8	19	▲ 31.6	▲27.8	▲3.8
	採算	2	10	8	20	▲ 30.0	▲27.8	▲2.2
	仕入単価		15	5	20	▲ 25.0	▲29.4	4.4
	従業員	5	11	3	19	10.5	▲5.6	16.1
	業況	1	9	10	20	▲ 45.0	▲58.8	13.8
	資金繰り	2	11	7	20	▲ 25.0	▲38.9	13.9
不動産・その他	売上	3	6	11	20	▲ 40.0	▲50.0	10.0
	採算	1	8	9	18	▲ 44.4	▲30.8	▲13.6
	仕入単価		8	12	20	▲ 60.0	▲23.1	▲36.9
	従業員	2	18	1	21	4.8	20.0	▲15.2
	業況	2	9	9	20	▲ 35.0	▲14.3	▲20.7
	資金繰り	1	15	4	20	▲ 15.0	▲14.3	▲0.7

(全体)

仕入単価以外は改善し、なかでも採算、従業員以外は10ポイント以上回復する見通しである。従業員は若干人手不足が解消される見通しである。一方、仕入単価は10ポイント以上悪化し、DI値も▲40ポイント以上と高くなる見通しである。

(建設・建築業)

仕入単価以外は改善し、特に従業員は30ポイント近く改善し、人手不足が大幅に改善される見通しである。
一方、仕入単価はほとんど悪化はしないが、DI値は依然として▲40ポイント以上と非常に高くなる見通しである。

(製造業)

仕入単価以外は改善し、特に業況では30ポイント以上と大きく改善し、マイナスから脱却する見通しである。従業員もマイナスから脱却し、過剰から適正となる見通しである。一方、仕入単価は30ポイント以上悪化し、DI値が▲70ポイント以上と非常に高くなる見通しである。

(卸・小売業)

仕入単価、従業員以外は改善し、特に業況、資金繰りは30ポイント以上、売上も30ポイント近くと大きく改善する見通しである。一方、仕入単価は10ポイント以上悪化する見通しである。従業員は若干悪化し、人手不足が少し強まる見通しである。

(飲食・サービス業)

売上、採算、従業員以外は改善するが、業況のDI値は依然として▲40ポイント以上と高い見通しである。一方、売上、採算はほとんど悪化しないが、DI値は▲30ポイント以上と高くなる見通しである。従業員は、過剰から人手不足に転じる見通しである。

(不動産・その他)

売上、従業員以外は悪化し、特に仕入単価が30ポイント以上、業況が20ポイント以上と大幅に悪化する見通しである。DI値を見ると、仕入単価は▲60ポイント以上、売上、採算は▲40ポイント以上と高くなる見通しである。従業員は、人手不足が解消され適正に近くなる見通しである。